

2015
ジェイプラス
Vol.3

J-plus

ジェイフイード® ペグロックシステム

Users' Report

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立こども医療センター（横浜市）

家族の団らんを実現できる 胃瘻管理

経管栄養管理でも家族と同じ食事ができるミキサー食のメリット——



人と医療のあいだに...

JMS

経管栄養管理における QOL 向上のために

無理をしないことがミキサー食注入を続けるポイント

ミキサー食注入の普及を目指し、栄養サポートチームでは、2012年から年4回「胃ろうからのミキサー食注入講習会」を開催しています。参加者の総数は前回で105名を数え、そのうちの8割がミキサー食注入を開始しました。

北河先生は、手順を知りミキサー食を実際に目で確認できる講習会が、ご家族の理解の手助けに一番効果的だと話します。

「半信半疑で参加されるご家族の方にも、想像より簡単で、ストレスもラブラブルも少ないことを理解していただいています」

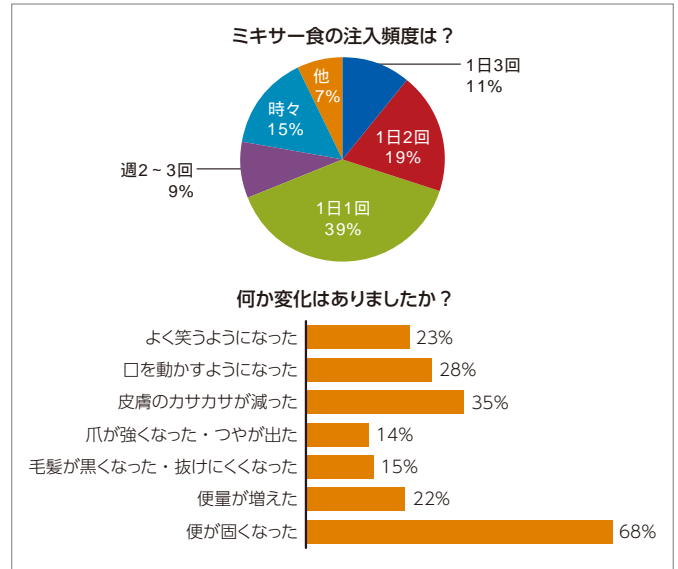
最近では訪問看護施設や病院等の看護師・管理栄養士、養護学校の教諭・行政職の皆さんも興味を持ち、全国各地から問い合わせがあるそうです。そこで、栄養サポートチームではパンフレットを作成、配布しています(写真)。

ミキサー食注入を開始し、続けるポイントは、無理をしないことだと中村さんはいいます。

「ミキサー食注入は生活スタイルに合わせる事が大切だと考えています。当院で行っている方も、1日1回もしくは週に何回かはミキサー食で、液体栄養剤と併用しているという方がほとんどです(図)」



(写真) 栄養サポートチームが作成した
ミキサー食注入の解説パンフレット
<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/kodomo/download/pdf/patient/mixer1403.pdf>



(図) ミキサー食注入に関するご家族へのアンケート
(神奈川県立子ども医療センター胃瘻外来調べ:2013年9~11月)

「ミキサー食注入を強制して、ご家族の方も疲れてしまうのではマイナスです。レトルト食品の併用を含め、続けられる範囲で行うことが大切です」

石川さんも胃瘻外来で、無理をしないでよいですよと伝えているそうです。その思いは原さんも同じ。

「胃瘻造設をする患児さんは、食事以外にも様々なケアを必要としている場合がほとんどです。ご家族と一緒にという点が大切だからこそ、私達の推奨がご家族の負担にならないようにしたいと思います」

北河先生は、「難しいことは何もないのです」と気負わずに始めてみることを勧めています。今後も患児さんとご家族のQOL向上のために、ミキサー食注入の普及が望まれます。

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立子ども医療センター

- 開設 / 1970年に神奈川県立子ども医療センター設置
- 所在地 / 神奈川県横浜市
- 病床数 / 419床(肢体不自由児施設、重症心身障害児施設含む)
- 職員数 / 1,090名
- 診療科目 / 総合診療科、救急診療科、集中治療科、アレルギー科、遺伝科、輸血科、感染免疫科、血液・再生医療科、循環器内科、神経内科、新生児科、内分泌代謝科、腎臓内科、児童思春期精神科、放射線科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科、麻酔科、病理診断科、リハビリテーション科、産婦人科、母性内科

